

○台湾産 *Drymaria* 属についての一知見(常谷幸雄) Yukio JOTANI: Notes on *Drymaria* from Taiwan

水島正美博士は、従来わが国でネバリハコベまたはヤンバルハコベと呼ばれ *Drymaria cordata* Willd. に当てられてきたものは、2種、1変種に分割するを至当とされ、八丈島及び青ヶ島産のものは、*D. cordata* Willd. var. *pacifica* Mizushima であり、沖縄及び台湾産のものは、*D. diandra* Bl. であるとされた。著者は1970年8月、台湾の南投県日月潭で本属のものを採ったが、当時これを八丈島及び青ヶ島産のものと区別することができなかった。同年11月タイ国の北部チェンマイ市に近い Doi Sutep で、本属のものを採り、標本を持ち帰り、水島博士の報文を参照して調査したが、花蕾の形その他から、*D. diandra* Bl. に当るものと考えられた。タイ国林野庁森林植物腊葉館から得た同山の植物リスト中には、*D. cordata* Willd. の名はあるが、*D. diandra* Bl. はなく、同山で *D. cordata* Willd. と思われるものは見当らなかった。リストにあるものは、著者の採った種類を指しているものと考えられた。1971年8月、台湾の東海岸、台東県知本温泉で採った本属のものは、前年日月潭で採ったものと同じように思われたが、未乾の標本で腋芽が伸びだしたのが見られたので、これを育てて苗をつくった。1972年3月、台湾のかなり広い範囲にわたり、各地で *Drymaria* 属のものを集めたが、台北県烏来、雲林県斗南、花蓮県天祥、花蓮、紅葉温泉、台東県永森などで採ったものは、さきに日月潭及び知本温泉で採ったものによく一致した。1972年8月、八丈島で本属のものを採り、これを栽培して台湾産のものと比較し、10月に両者ともにたくさんの花蕾をつけたので、栽培上の観察のみでなく、花の構造などについても互に比較をして見たが、それらの間に区別をつけることができなかった。

以上により、台湾にも *D. cordata* Willd. var. *pacifica* Mizushima に当るものがあり、全島にかなり広く分布していることを知った。これらはともに花蕾の基部は丸味を帯び、先端は尖った形をしており、萼片は無毛で平滑、小花柄には先端がふくらんだ腺毛が密生し、花柄の基部に近く腺毛を散生するか、或は殆んど無毛のものであり、これらの点は八丈島及び青ヶ島産のものとともに互によく一致した特徴である。

このほか台湾の別の産地で採ったものには、幅が 25 mm をこえる大形の葉のもの、莖に毛のあるもの、花柄に毛の多いもの、萼片に毛のあるものなどが見られたが、タイ国で採ったと同じようなものには未だ出会わない。文献や資料の調査が不充分なため、分類学的な結論をだすことはできないが、上の事実を報じて大方の叱正を仰ぐことにする。

(東京農業大学)